



# みすず



5月新装開館の附属図書館

## 目次

文学は好みの問題か	太刀川 清…………… 2
やさしい社会	原 史子…………… 4
自分をもっと深く掘れ	福沢 誠…………… 6
心に残る一冊のために	幼児教育科2年 阿部 志織…………… 8
「樹下の二人」から	国文科2年 原田ふゆき…………… 9
児童文化研究大会に参加して	幼児教育科1年 荒井 朝子……………10
図書館ガイド	……………11

またしても教室で『雨月物語』の話をする  
ことになった。水曜日の「文学」の時間である。  
大学の「文学」でどんな作品を読めばよいのか  
と考えれば、私の専攻柄『雨月』が適当である  
ことはそれなりの理由がある。しかし『雨月』  
九篇のうちどれから始めるかとなると問題は別  
で、あれこれ迷ってはみたが、やはり「菊花の  
約」(きっかのちぎり)になってしまった。や  
はりというだけのことで理由あってのものでは

# 文学は 好みの 問題か

太刀川 清

教授  
国文科副学科長

いから、どうも好みということになりそうであ  
る。九篇もあれば、あれが好き、これが嫌いとい  
うこともあろうから、所詮は好きなどころに  
落ち着くわけである。してみると文学の好みは  
とかく相対的なものらしい。

佐藤春夫に「あさましや漫筆」なるものがある。  
「上田秋成の諸短篇を論ず」などと厳(いかめ)  
しい題名もついているが、錚々たる作家たち  
が、そのいわゆる好みで議論しているから面白  
い。谷崎潤一郎は『雨月』では「蛇性の姪」  
(じゃせいのいん)が第一で「青頭巾」(あおず  
きん)もいいと言った。すると春夫は「蛇性の  
姪」と「吉備津の釜」(きびつのかま)が最も嫌  
いだ。あの持って回っているところがいやらし

いと言うと、そばで芥川龍之介が、小説とはく  
どくていやらしいものだから「蛇性の姪」がい  
いと言って争っている。それならおまえはと言  
われて、春夫は「白峯」(しらみね)でも「浅茅  
が宿」(あさじがやど)でも「夢応の鯉魚」(む  
おうのりよぎ)でもいいが、就中「菊花の約」  
が傑作だと主張する。すると龍之介は、あれは  
まだ翻案味が抜け切っていないと反駁する。そ  
の後になって潤一郎が、出来はやっぱり「菊花  
の約」が一等だと言い出した。三人がそれぞれ  
に個性ある物言いをしていたが、結局は「菊花  
の約」のなったようである。その経緯はどうも  
好みの問題で、それもあの起筆にあるらしい。

「青々たる春の柳、家園(みその)に種(う)ゆ  
ることなかれ、交わりは軽薄の人と結ぶことな  
かれ、楊柳茂りやすくとも、秋の初風の吹く  
に耐へめや、軽薄の人は交りやすくして、亦速  
かなり」(春になると青々と芽をふく柳を庭に  
植えてはならない。交際は誠実さのない薄情の  
人と結んではいけない。柳はすぐ青々と茂るが、  
秋の初風の吹くのに耐えられず、真っ先に散っ  
て行く。軽薄の人は仲よくなるのは早いけれど  
も、離れて行ってしまうのも早い)。まだ続く  
が、名文とはこういうものかと感心しているの  
は私だけではなく、あの三人もやっぱりそうら  
しい。殊に春夫など、この起筆にもとづいてわ  
ざわざ「菊花の約を読む」などという一文を書  
くほどの打ち込みようである。

起筆に従えば秋成はこれから軽薄の人の話を  
するに違いない。軽薄な奴は丈部左門か、それ  
とも赤穴宗右衛門か。見知らぬ行き倒れをを看  
病するような親切な左門ではあるまい。それな  
ら赤穴だ。しかしこれも半生の命をかけて恩に  
報いると再三言っている。これにも嘘はないら  
しい。そのうちに二人は意気投合して義兄弟と  
なる。どうも変だ。一体誰が薄情者なんだ。そ  
うこうしていると赤穴は突然国へ帰ると言い出  
す。そら案じた通りだ。やっぱりこいつだと読

者は薄情者を期待して変に安堵するのである。ところが赤穴は死を賭けて「菊花の約」を果たすのであるから、また裏切られてしまう。こうして信義と危惧があざなう一本の縄のように展開して行く物語が、やがて感動のうちに美しくも団円（だんえん）を迎えるのである。言わば予想の裏切りが期待以上の感動をもたらすのである。

それなら、一体あの起筆はどう読めばよかったのか。あの続きは「楊柳いくたび春に染むれど軽薄の人は絶えて訪ふ日なし」(柳はそれでも春が来るごとに青々とした葉をつけるけれども、軽薄の人は二度と再び訪ねて来る日はない)。やっぱり薄情の人物のことしか出て来ないのである。確かにおかしい、そんな思いに駈られて信義に悖（もと）る人物を探して読者はまた「青々たる春の柳……」と読み始める。そうするうちに好きになってくるのだから不思議な物語である。

それにしても権謀術数の横行する世の中で「人一日千里をゆくことにあたわず、魂よく一日千里をもゆく」(人は一日千里に行くことは出来ないが、魂は一日に千里に行くことが出来る)と信じて自刎（じぶん）して、亡霊となって約束を果たすなど、なんと感動的ではないか。怨みや愛執によって成仏できず姿を現す亡霊で

はない。煩惱や執着にとらわれず死んでただ信義を守ろうとする、こんな特異な亡霊は文学でなければ見られないものである。

怪異の文学は恐怖だけでなく、深い感動が伴わなければ傑作とは言われない。感動的であるが故に恐ろしいのである。誰であったか「人間はしばしば非人間的な存在によって逆証される」と言った人がいた。蓋（けだ）し名言である。われわれが赤穴の亡霊、この非人間的な存在に感動しているなら怪異そのものが人間と共にあることにもなる。更に言うなら怪異は人間そのものであり、もしかすると鏡に映った自分の姿であったかも知れないと思うと無性に恐ろしくなって来るのである。

ここまでくると、あの三人は好みと見えても、やはりただ好みで議論していたわけではなかったようである。一篇一篇を分析した上で、好みの問題として主張していたのである。『雨月』九篇のどの物語に最も感動したか。その怪異が最も恐ろしかったか、それを検(ただ)してみれば、やはり「菊花の約」に到るのである。どうも文学は好みの問題であると言ったら叱られそうである。

ちなみに余計なことをひとつ。あの三人の議論で話題にならなかった篇が二つある。この二篇は確かに私の好みではない。

## 本学の先生方の

## 新刊書

(平成9年中に発行された単独・共著・分担執筆)

### ◎『図書館員に勧めたいこの一冊』

日本図書館協会 一八五四円

丸山 信先生 分担執筆

◎ベテラン司書と、図書館学の教官が図書館員のために勧める図書館に関する本のガイド。

### ◎『児玉果亭の生涯』

「児玉果亭の生涯」刊行事務局

山本秀磨先生 著

◎祖父・父とも児玉果亭門下の画家の系譜に生まれた山本先生が、果亭研究をライフワークとして拘わり続ける五百頁に及ぶ力作。

### ◎『長野県美術全集12、

信州の現代芸術の世界』

郷土出版社 二〇三八八円

◎信州出身の現代作家四十七人中に非常勤講師の池田輝先生作品「奏でる」他二点が掲載。

# やさしい社会

原 史子(幼児教育科講師)

図書館報の原稿ということで、最近読んだ本のことで書こうと手近にあったものをパラパラ見返したところ、つい一冊まるまる読んでしまった本がありました。少し古くなりますが、ひこ・田中さんの『カレンダー』(1992年/福武書店)。

おもしろかった。お勧めです。

で、読みながらつらつらと思ったことを少しばかり。

この物語の主人公、時国翼は物心つくまえに両親を事故で亡くしています。で、中一の今は二年前に離婚した父方の祖母とふたり暮らし。そこへ面倒な過去を背負った若い男女が転がり込んだり出ていったりと、ひとつ屋根の下で過ごす全ての人員の姓が違うという状況の中で物語は進展します。

翼を取り巻く境遇は、現実にあったとしても少数派でしょうが、ここには「家族」という概念なしには語れない寝食を共にした生活があります。ただ、家族像のベースとしているは最近の社会学が読み解いてきた現代の家族の構図でしかなく、家族の絆賛歌とは全く違います。

『『死亡に離婚』の話をする、だいたいは「大変ネ」とか「がんばってネ」とか「えらいネ」とかがかえってくる。あれ、私はメッチャ腹立つ。よけいなお世話だと腹立つ。私はそんなことを売りにして毎日毎日生きているのやな

いもの。そんなことをプラカードにして持ち歩いていないもの。』(19頁)

こう翼にいわせることによって、既成概念としての幸せな家族像を捨てなければ表し得なかった一個の人間のリアルな生活が描かれます。また同時に、この設定の中では家族の中での男女役割といったものも意味を捨てざるを得ません。

幸せな家族像の賛美は、時として暴力的です。それは、このプラカードを車椅子や、あったかもしれない手足、視力、聴力、言葉等に置き換えてみればはっきりするでしょう。やさしい社会がきっとこういつてくれるところです。

「大変ですネ、がんばって生きて下さい」

「自分の容姿」なんてので置き換えてみるとぞっとするところですが、個別の関係性を離れたおどおどした視線が生み出せるのは、そのくらいの言葉なのでしょう。これは、ひいて言えば社会を構成する個々の人員自身の生活感覚のリアルさにも関わっている気もしますが、その話はここでは置いておきます。

翼は折りにふれ両親のアルバムを広げますが、ある時を機にその中に写ったふたりの姿を自分やひとの体を借りて再現してみようとしています。また、母親である「心さん」の中学生から大学生までの日記も手に入れようと思いますが、それは別にまぶたの母としての心さんを偲んでの浪花節ではありませんし、自分のルーツ探し

とも違います。興味は自分の母親になる前の心さんへと向かいます。

心さんの日記のコピーを手にした翼は、実際のところ何を求めていたのでしょうか。

同じ時を過ごす人々とのリアルタイムの関係性だけでは汲み取れないもの、また、未来の自分に問いかける方法、即ち成長すれば解決するだろうというのではどうにもならないものを欲しているようです。が、ここにあまり書いてしまうのは、これから読もうとする方に申し訳ありませんし、それよりも、勝手に想像してひとくくりの言葉にしてしまうのは彼女に失礼な気がするのでやめておきます。

気になるのは心さんの日記を「一人の女子」の日記と翼が呼び替えているところです。ひょっとして、誰の日記でもよかったのか？

私は、ひとつにはそこに血縁というキーがあったからこそ開かれた窓口があったように思います。もうひとつは、悲しいことですが、閉じてしまった人生だからこそ用意された扉があったのだと思います。

この血縁というのは、この場合たまたま血縁だった、とした方がなにかといいのでしょうか、翼のいう「いろいろ参考になると思う」ものに触れるために、なんとまあ、面倒な手続き(?)が必要なことか。

もちろん、死んだ母親の日記の存在はそんな機能面だけに還元されるものではないでしょう。しかし、私はここから今の日本社会といったものに想像を巡らせてしまいました。

平和は平和だが、先行きが不透明で良かれ悪しかれ世の中の座標軸となるような強力な価値観を押しつける存在もないしその規範もない。教師は師でなくなり大人達は子供たちを導くすべを持たず、そのくせやりたいことはなんでもやりなさいと、うわべだけだとしても大方のことが許されるやさしい社会。そして、そんなゆるゆるの上に覆い被さる目的意識ややりたいことがなければならぬという圧力……。

平和な今を生き抜くための汎用アイテムなどなく、自分だけのものを求めたとしてもそう簡単には手に入らない、ということでしょうか。

なんだか悲観的になってしまいました。

で、そんなときのための名文をひとつ。

「わたしは、そんなに悲観的なことばかり考えてはいけぬ、と言いました。人生は訪れては去っていく夏休みの繰り返しののだ、とさえ言いました(中略)。わたしたちは、夏休みの終りには宿題を提出しなければならない。それが、自分でやったものであろうと、他人が代わりにやってくれたものであろうと、そんなことはどうでもよろしい。あれだけ遊んだのだから、2、3発ぶたれたっていいではありませんか」(高橋源一郎『ペンギン村に陽は落ちて』より「序文」39頁、1989年／集英社)。

ちょっとこじつけっぽかったですか。

まあ、ちょっとやさそとのムリくらいで殴りつけたりはしないやさしい社会のことですので。

# 自分をもっと深く掘れ

—学窓より社会人になるにあたって—

福 沢 誠 (非常勤講師)

昭和20年の日本の敗戦直後に学生時代を送った私共は、今では考えられないような、物資不足とインフレの中で耐乏生活を送っていた。その当時はとくに食糧不足が深刻で、衣類を手離して「お米」を買うという、いわゆる「タケノコ生活」をおくる人が多かった。

食糧不足とともに、文化のバロメーターともいわれた「紙不足」もひどく、「新生」とか「理想」とかいう雑誌は「ザラ紙」であった。たまに発行される単行本も紙不足のため、発行部数が少なかった。岩波書店で発刊された三木清の「哲学ノート」や西田幾多郎の「善の研究」の発売日には、朝5時に起きて、神田の岩波書店に駆けつけ、学友と共に行列をして買ったことを覚えている。

お腹が空いていても、読書欲が旺盛な青春時代であった。私の在学した大学は、武蔵野の面影が残る閑静な松や樺の林の中にあり、図書館もその中の一隅にあった。信州の学海といわれる塩田にある上田女子短期大学も、静かな小高い山々に囲まれ、自然環境に恵まれており、よく似た環境にある。とくに私にとって懐かしいのは、美しい田園の中をチョコチョコ走る別所線の電車が、かつて通学した「多摩湖電車」を思い出してくれることである。

私は学部では経済学を専攻したが、旧制の大学予科では、経済学に余り興味がなく、人生の指針になるような哲学や文学に関心があった。当時読んだヘルマン

ヘッセの「デミアン」とか「シッタルタ」、和辻哲郎の「風土」、シェンキーヴィッチの「クオ・ヴァデス」など忘れ難い。社会人になってからも、これら名著は、時にふれ、手にして眼を通してはいる。

ところで人という字は二本の棒から成り、両者は支えたり支えられたりして、人という字を構成している。人はただひとり離れていては何も解決しない。人と社会との関係は、丁度、魚が水の中にあるごとく、離れることのできないものである。人をとりまく環境は、親子の家族関係をはじめ、学校・職場・地域社会・趣味のグループなどあり、人間は、いろいろな人間関係を作っている。

学校を卒業して社会人になるということは、年令が違い性格も違う他人のいる職場で男女が一緒に協力して仕事することからはじまる。そこでは、上司や同僚との信頼関係がもとなる。日常の職場生活では、朝の出勤時、夕方の退社時のあいさつからはじまって、仕事の指示・作業・連絡・報告の連続となる。良い人間関係は、

- ① 明るくあいさつ
- ② 素直な返事
- ③ 心のふれ合い
- ④ 活発な行動
- ⑤ 誠実さ
- ⑥ 相手への信頼
- ⑦ 前向きな仕事への取り組み

などによって生れる。

言葉を代えていえば、職場はヒューマ

ン・リレーションズ(人間関係)により成り立っており、コミュニケーションを良くすることが大切である。

コミュニケーションとは、辞書によれば、「一般的には、人と人とがお互いの考えを伝えあう、つまり、口頭・文書・電話・電子メールなど、その他手段のいかんを問わず、相互に意思を伝達することを言う」とある。

バーナードというアメリカの経営学者は、職場(組織)における三つの要素として

- ①共通の目的
- ②共働的意思
- ③コミュニケーション

をあげており、組織におけるコミュニケーションの重要性を指摘している。

職場の中のコミュニケーションには、

- ①上(上司)から下(部下)へのコミュニケーション
- ②下(部下)から上(上司)へのコミュニケーション
- ③同僚の間での横のコミュニケーション

の三つがある。

良きコミュニケーションによって、相手の立場を理解し、共通の目的に向って、お互いに努力するのが職場であり、個人のわがままは許されないのである。

職場(社会)における個人の心構えはどうあるべきか。自分を最高に生かし、人からも存分に生かされるためには、日々何を考え、どう行動したらよいのか。と

いうことについて、日本の紙幣(五千円札)の肖像にもなっている新渡戸稲造先生の「自分をもっと深く掘れ！」(三笠書房)によれば、

- ①まごころを尽くせ。それが礼儀正しさとなる。
- ②自分から人間好きにならなければ、人生は開けない。
- ③「これしきのことに腹を立てるようでは、自分がもったいない」と思え。
- ④自分の成長のため一歩退くことを覚えること。
- ⑤相手に花をもたせる人間に「敵」なし。
- ⑥親しき仲だからこそ、なれなれしさを慎め。
- ⑦相手の六つの長所に目を向けて、四つの短所には目をつむれ。
- ⑧自分さえしっかりしていれば、「八方美人」も悪くはない。
- ⑨頭の働かせどころを知ることが大事。
- ⑩存在感のある人間、代役のきかない人になれ。

以上、社会人になるにあたって参考になる教訓を、先生の著書から抜粋させて頂いた。

機会があれば、一読をおすすめしたい。



# 心に残る 一冊のために

幼児教育科2年 阿部 志織

「先生、今日は何を読んでくれるの?」「先生この本読んで」私が実習の時に子どもたちの口からよく聞いた言葉です。子どもたちは本当に本が大好きで、自由遊びの時間やお昼の後など読んでいる姿をたくさん見ました。一冊の本を何人かで囲み、どれが好き?とみんなで指を指し合ったり、ただ絵を見て楽しんでいたり、先生の真似をして読み聞かせるように声を出して読んでいる子など様々です。

私が小さい頃もたくさんの本を読みました。保育園で先生が読んでくれた本、母が買ってくれた本、祖父母が話してくれた昔話など絵や内容もよく覚えています。こうして大人になってもまだ覚えているのは本が心に語りかけていたからだだと思います。こういう語りかけは、読み手が子どもたちにどう聞いてほしいか、どう感じてほしいか、感情を込めて読まなくてはなりません。ただ棒読みで文を読んだのでは、その本の登場人物たちの様子や情景、物語の流れなど、子どもたちにはつかみにくいと思うし、イメージも広がっていかないと思います。

一冊の本でも読む人の感じ方、とらえ方、そして読み方によって広がる世界は様々です。実習で子どもたちに本をよんであげる時にその事をよく考えました。聞かせる前に下読みをし、自分なりのイメージを作り上げ、ここはこんな風に読もうと思い、子どもたちに読んであげました。子どもたちは引き込まれるように本の世界に入り込んできます。そして主人公になりきったり、いろいろ感じて質問してきたり、話しかけてきたりしながら本と一緒に旅をしています。

読み終わった後、息をしていなかったかの様にハァーと呼吸をして、のり出していた体が元に戻り歓声と拍手が自然と上がります。これは

子どもたちの心を育てるためにとても大切なことだと思うのです。子どもたちの心の中にこうして感動が生れているはずですが、そしてもっと本が好きになり、心に残る一冊になっていくのです。

本はただ文字を覚え、言葉を覚えるだけのものではないと思います。読んでいる時の自分の世界、読む側と聞く側の心の通い合い、そして感動すること。これらは豊かな感情、想像力を育て温かな心を育むものとして大切なのではないのでしょうか。

今も図書館に足を運び、幼児向けの本を手にとると、この本は小さい頃読んだという懐かしさと同時に、あんな風に母や先生が読んでくれた、とか、読んでいた時のその場の様子や雰囲気も一緒に思い出します。私が小さい頃に読み、心に残っている本が今もなお子どもたちに読まれていることをとてもうれしく思いました。そして、また同じ本でも私とは違ったイメージの世界が子どもたち一人一人に広がっているのだなと考えました。

本は見る人によっていろんな角度から私たちの心に語りかけてくれます。私は子どもたちにたくさん本を読み、本はこんなに素敵なものなんだということを感じさせてあげたいと思います。そんな保育者になるためにこれからたくさん本と出会っていきたく、子どもたちに心に残る一冊の本ができるように本を読んであげたいものです。また子どもたち自身がそういう本にめぐり会えることができるようにと思っています。





# 「樹下の二人」から

「人は一生の間にどれくらいの本を読むものか知りませんが、どうも女は、自分の好みでごく狭い枠の中で、似たようなものを読んでいるように思います。たまには思い切って、全く別の世界のものにとりついてみたらどうでしょうか」とは、向田邦子の言葉である。

確かに、手持ちの本を見る限り、私にはその傾向がある。例をあげると、森鷗外の本が一冊もない。夏目漱石の本は、棚に並んでいる。

偏った読書ではなく、時間がある学生時代には、色々な本を手にするべきであろう。

重要なのは、時間があるということだけではなく、今、持っている感受性で作品に触れること。その出会いは一期一会なのだ。このことに気が付いたのは、久し振りに『智恵子抄』を読み返している時だった。

—あれが阿多多羅山、  
あの光るのが阿武隈川。

かうやって言葉すくなくに坐ってゐると、うっとりねむるような頭の中に、  
ただ遠い世の松風ばかりが薄みどりに吹き渡ります。  
この大きな冬のはじめの野山の中に、  
あなたと二人静かに燃えて手を組んでゐるよろこびを、  
下を見てゐるあの白い雲にかくすのは止ませう。

途中略

ここはあなたの生れたふるさと、  
この不思議な別個の肉身を生んだ天地。  
まだ松風が吹いてゐます、  
もう一度この冬のはじめの物寂しいパノラ

マの地理を教えてください。

あれが阿多多羅山、  
あの光るのが阿武隈川。—

頻繁にはないが、繰り返して親しんでいる詩集である。にも拘らず今回は、「樹下の二人」という詩が、特に印象に残った。

光太郎と智恵子の二人の姿が目には浮かんだ。言葉数の少ない会話の中に、込められている様々な気持ち。松風が吹き渡る、閑寂とした樹下に座っている二人。しかし、この詩から冷たさ寒さは感じない。とても温かい、何ものにも替え難い温かさを感じた。

読んだことのある本でさえ、新しい魅力を見つけることがある。そう思った時に、今まで読んだことの無い本を、無性に読みたくなった。

十年前でしか感じとれなかったもの。

十年前では感じとれなかったもの。

十年後にしか感じとれないもの。

十年後には感じとれないもの。

今、感じとれるもの。

新しい世界に出会いたくなった。それも、思い切って、全く別の世界に。

早速図書館に行こう。そう思った。

(引用文献)

『眠る盃』 向田邦子著

『智恵子抄』 高村光太郎著

私は、児童文化研究大会の「ミュージカルに取り組むアーティスト達」というテーマで、山の子学園共同村の先生のお話を聞きました。

山の子学園共同村は、知的障害者授産所施設で障害を持つ方々が、授産活動に従事しながら暮らしています。その上、クラブ活動をされているということで楽しそうに生活している様子がうかがえました。

特にミュージカルクラブは、歌が好きな人達が集まり、そして、長野県知的障害施設大会で発表するなど、素晴らしい活動をされているなと思いました。

更に、その発表に至るまでの過程を聞いたり、ミュージカルのビデオを見て、クラブ員の方々の頑張りに対し、自分はどうなのかということを考えてさせられました。

ミュージカルは、「王様のごほうび」

という題目で、街の人達の歌を通じての触れ合いの物語でした。主人公の王様役は、学園の中でなかなか自分を表現することが出来ず、集団の中では弱い立場になってしまっているというMさんでした。

しかし、Mさんは、舞台上で堂々と王様役をつとめ、自分を表現することの楽しさのようなものを得たのではないかと感じました。

Mさんだけでなくクラブ員全員、舞台の上で堂々と胸をはって立ち、楽しそうに歌ったり、踊ったりしていました。その姿は、とても輝いて見え、精一杯自分を表現しようとしているということが伝わってきました。

私たちの普段の表現活動の主な手段は言葉によるものですが、障害によってそれがしにくい人達もいます。その人達は絵や手、体全体などで心に思ったことを表現しています。

それは障害者の方ほどたくさんしているということに気付きました。例え言葉にならなくても、体やその他の所で自分を表現しようとしています。その姿は本当の人間らしさを私達に訴えているように感じられます。

私は、そういう心の叫び、訴えなどを感じとれる人になりたいと思います。

午後は長新太さんの講演をお聞きました。長新太さんはたくさんの絵本を書かれており、絵本についていろいろ教えて下さいました。

## 児童文化研究大会に参加して



幼児教育科1年 荒井朝子

長さんは、絵本を書くにあたり、大切にしていることは、“ユーモア”や“ナンセンス”だとおっしゃっていました。

大人にとって意味がわからないものであっても、子どもにとってはそれがおもしろいと感じる絵本を作りたいとおっしゃっていました。

確かに大人は、

子どもに絵本を与える時に、子どものためになる本にしようと考えがちだが、一番大切なのは、子どもが楽しめる、おもしろいと感じる絵本を選んであげることではないかと思いました。

また、子どもの絵は発想がおもしろく、すごくいいものを描く、また、絵だけではなく物をつくる創造性が豊かだとおっしゃっていました。しかし、大人になるにつれ、そういう発想が欠けるのは、子どもの自由な発想を大人が押しつけてしまっているからではないかと思います。

私たちは、何かと理屈を求めがちになり、単純な“ナンセンス”や“ユーモア”というものを楽しめなくなっているような気がします。

大人も子どもと一緒にそれらが楽しめるような、心にゆとりがある保育がこれからは必要ではないかと思いました。

## 【図書館ガイド】

# インターネットで書誌情報を検索してみよう

本年、パソコン教室の整備に合わせ、図書館でも「インターネット」の接続が可能となりました。

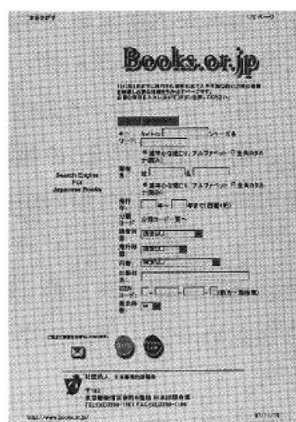
そこで、ここでは「インターネット」で検索可能な書誌情報の中から、代表的なもの2件の検索方法を解説したいと思います。

## 1. 「日本書籍総目録」

＝日本書籍出版協会のホームページ

アドレス番号=<http://www.books.or.jp/>

ホームページの1頁目でも明かなように「1997年6月までに発行された、現在日本で入手可能な約53万冊の書籍を検索し、必要な情報を引き出す」と明記しています。(表1)



国内のほとんどの出版社が各自の在庫情報をコンピュータにデータ入力、それをホームページ上に提供し、流通状況が一目でわかるようになっています。

検索出来るキーは、「タイトル(書名)」「著者名」「発行年」「分類コード」「読者対象」「発行形態」「内容」「出版社」「ISBNコード」等です。

但し、分類コードはいわゆるNDCではなく、「日本図書コード管理センター」のコード体系で、発行形態・読者対象・内容等で絞り込みを行う時に参照して下さい。

(表2)に、実際に「たまごっち」という言葉が入っている書名を検索してみました。(1件のヒットがみられるが、データが6月現在のため、実際は30冊程流通)

これらのヒットした内容を表示してみればよいわけです。(基本的には最高10,000冊まで、100冊単位で区切って表示されますが、これを全部見るのは大変なことで、時間(通信料金)もかかりますので、再度絞り込みをし、件数を減らして見ます)

検索結果	一覧	詳細	使い方
「これから見る本」掲載データです。書名・価格が変更されていることがあります。			
著者一書	AC	1冊	在庫情報(複製)N/A
<b>たまごっち 學術考</b>			
タマゴっちクラブ			
C-0008	300	1冊	
ISBN	4-274-24588-6		オーム社

該当の図書がみつかったら、書名をクリックすると詳細が見られます。なお、表示された書名にアンダーラインがしてあるものへは「Books Link」といって、書籍サーチエンジン「Books」で見つけた書籍の内容等のさらに詳しい情報を、該当する出版社のホームページにリンクして、見る事が出来ます。

## 2. 国立国会図書館のホームページ

アドレス番号=http://www.ndl.go.jp/

国立国会図書館に、「納本制度」によって、国内で発行され納本された図書がデータベース化されて、ホームページ上で公開されています。

(表3)



但し、国立国会図書館が所蔵している蔵書すべてをホームページ上で公開することは物理的に無理があり、最近1ヶ年間に整理されたもの(約10万冊)を1ヶ月更新で掲載しています。

検索方法は、「書名」「著者名」「出版社」のキーで検索します。一覧表示は50件ずつ、最大999件まで表示します。こちらも絞り込みが必要です。

「使い方」のページに詳しい使用方法が掲載されていますが、書名の前方一致検索は、例えば、「情報」という言葉で始まる書名を検索したい時は、「/情報」として入力します。後方

一致は、「情報/」、また、書名の途中にある場合(部分一致)は「/情報/」と入力して検索します。

国立国会図書館が所蔵する蔵書すべてからの検索はCD-ROM(J-BISC)から検索できますので、司書にお尋ね下さい。

以上2件のホームページを紹介しましたが、この他に日本国内でインターネットを通じて蔵書公開(OPAC)している大学図書館等や、在庫情報を公開している大手書店(紀伊国屋・丸善・三省堂等)や、古書在庫情報を公開している古書店なども多くなりました。

詳しいことは、司書にお尋ね下さい。

## 3. インターネットを上手に使うには

「インターネット」は非常に便利で、なおかつタイムリーに情報を入手できる利点があり、今後おおいに使いこなしたいメディアですが、いたずらにあちらこちらリンクを続けるとエラーが発生したり、時間(通信料金)の無駄になり、膨大な情報量の中から適切な情報が探せなくなります。

目的を定め、ホームページ上の「使い方」等の解説をあらかじめ一読してから実際の検索を試みましょう。

また、本館の蔵書に無いもので、検索によって入手可能な図書が見つかったら、購入希望を出して下さい。出来る限り要望に沿いたいと思います。(長張)

### 編集後記

図書館報「みすず」24号をお届けします。創立25周年を記念して図書館が増築され、広く立派な図書館になった。学習・研究に大いに利用していただきたい。

なお、「創立25周年記念特別展」も教職員各位のご協力で実施でき、また、本号のために3人の先生をはじめ、貴重な原稿をお寄せ頂き、厚く御礼申し上げます。(丸山)

### みすず 上田女子短期大学附属図書館報 第24号 1997.12.発行

編集 上田女子短期大学図書委員会  
発行 上田女子短期大学附属図書館

〒386-12 長野県上田市下之郷620  
TEL. 0268-38-2352  
FAX. 0268-35-7315